

# 柿木菓子店

柿木和子さん（63歳、招提元町・柿木菓子店）

△その1▽

1991. 2. 1号

## 饅頭屋に生まれる

私が生まれたのは、大正十五年の十一月六日ですわ。その年の十二月二十五日に大正天皇が亡くなりはって、昭和元年になったんですけどね。昭和元年は、だから一週間ぐらいしかなかったわけやねんね。年明けたらもう昭和二年……。

私の家は饅頭屋してましてん。私が一月六日に生まれて、年の明けた昭和二年の二月三日、私がまだ〇歳の時に、饅頭つくってて父が急に倒れて亡くなってしまったわけ。脳卒中ですわ。酒も飲まへん真面目な人やったいうことなんですけど、家新築して、これから……いう時に亡くなりはってんね。私はまだ百日ぐらいしかたってませんわ。

私には兄と姉が一人ずつおりましてんけど、小さい子供三人抱えてどうやって生計立てていくか、母親もいろいろ考えたらしいですけどね、勝気な性格やから祖母やおじさんたち



昔の殿二小学校（昭和11年）周囲は畑ばかりだ。

に助けってもらって、饅頭製造を続けはったんですわ。

私が学校あがったんは、昭和八年で、今の招提公民館のここにあった招提尋常高等小学校ですわ。学校と役場と広場があつて、一年、二年までそこにいて、三年生の時殿山第二小学校に移ったんですわ。

一年生の時の学芸会が「ねずみの嫁入り」の劇でね、私の役はねずみの「ちゅう子」、茂村寿恵子さんがお母さん役で、土井浦通夫さんが「ちゅうすけ」役でしたわ。どんなやつたやろねえ。かわいかったんちゃう？（笑）

招提尋常高等小学校は、尋常科と高等科二年とがありました。私たちの時は教科書が「サイタ サイタ サクラガサイタ」って色刷りになったわけ。それまでは「マメ マス」：カラスガイマス」とかやったけど、ころっと変わった。昭和八年に満州事変が起こったでしょ、それから戦争一色やねん。

### 招提小から殿二小へ

昭和九年に室戸台風がきて、牧野小学校（今の殿一小学校）がつぶれて大きい被害出ましたやろ。あの時私まだ小学校（招提小学校）二年生やったから、まだこわくなかったんよね。朝、学校行く時、傘がばっちょ傘（骨が上向きになる）になつて困ったけど、面白かったよ。

学校の廊下も水びたしになつて、最初はふざけて遊んでた

んやけど、風がだんだんきつなつてきて、校舎も揺れるし、外見たら屋根瓦が葉っぱみたいに飛んでるし、吉山先生も言うてはったけど、どっかの牛も逃げ回ってましたわ。

昭和九年の台風の被害が大きかったんで、財政のこともあつ

て、昭和十年に旧牧野村と招提村が合併して殿山第一小学校、阪、してん。それで牧野小学校を建て直して殿山第一小学校、四ヶ郷（養父・宇山・上島・下島）、招提が殿山第二小学校いうことでね、それを養父のあそこに建てたわけですよ。それで私ら三年の時に移ったんよね。

### 言葉が違う

その時いろいろびっくりしたことありますよ。招提と牧野の方とで、服装は違うし、言葉づかいも違うわけね。今やったらひつついてるけど、前は牧野本町の太忠さん（酒店）とこらへんからずっと家なんかあらへんやん。だから言葉も違うねん。

招提いうのんは、女の子でも「お前何してんねん」てなくあいでしょ。今そんな言葉つかわへんけどな。そやけど牧野



ばっちょ傘

の人やったら、「あんた何してんの」って、こんな感じやねん。ほんまに田んぼばかりやから、言葉づかいもそら違うわね。「お前何してんねん」「わしか」て感じやからね。女同士ですよ。外の世界と接することが少なかったんとちゃう？ やっぱり牧野は京阪電車通ってるだけあって違う……私は子供心にそう思いましたで。

いもくりを食べる

その頃、おやつというたら、今みたいに何でもなかったもね。桑の実？ あれは口が紫になるけど、おたくらご存知？ 庭にはぐみの木があつて、それから柿。今少なくなったけど、柿の木はもっとありましたよ。うちは名前が柿木やから、そのルーツ知りたいけど、わからへんけどね。うちの周囲にも五、六本ありましたで。

それから、さつまいも。さつまいもの生をね、あれをポンと割ってね、竹のへらでくりくりすんねんね。「いもくり」いうて、それ食べてたよ。甘い。生やったけど、それ食べてましたわ。いも保存するのに、軒の下に「いもがま」いうてね、穴掘ってさつまいもをかますに入れてなおしてはった。

宿題は草刈り

高等科の時分やったらね、夏の宿題、軍馬の干草刈りでし

てん。今、岡薬局あるでしょ、あこらへん、みな原っぱでしてん。医大の横にあるでしょ。あこらへん住宅建ってるけど、みな原っぱやった。あそこで草刈ったりね、堤防行ったり。持って帰った草を干して、何貫目とかいうてね、束ねて学校持って行って、教室のとこ草いっぱい入れてあったよ。

上履きはわらぞうり

学校でも、上靴なんかなかったね。「せきら」いうんか「雪駄」いうんか、畳敷きに赤い鼻緒がついて裏にゴムのついてる、ああいうもんはいて、だんだんそれもなくなつて、わらぞうりでしたわ。おばあさんもいてはったからわらぞうり作ってくれて……。通学は何履いてたかなあ。革靴にはあこがれてた思うわ。革靴によく似た、横にバンドのついたズックか何かの靴を、六年の修学旅行には買ってくれたの覚えてますわ。修学旅行で伊勢行った時は、上から下までやっぱりちゃんとしてくれましたねえ。何ぼ母子家庭でもね。

遊び

遊びは縄跳びとかおじゃみとか、ゴム跳びもした。縄いうたかて家であんだ縄やった。今もなえるよ。ほんまの縄や。高学年ぐらになつたら自分で縄なつた。家は農家じゃなけれど、本家が百姓やつたし、ぐるりが農家の人やから、

それは吸収するわねえ。米搗こくにしても、からず（唐白）て  
いうか、ガツタンゴットンと足で踏んづけてね。「百数える  
まで搗こき」ちゅうもんやね。今みたいに真まっ白しろなるまで搗こか  
なかったよ。

関所があった

長尾に親戚があつてね、用事で行くねん。そしたら長尾の  
入口に子供が二、三人おつて、通してくれへん。「お前どっ  
から来た？」いうてね。駅向いたらそれがないわけ。まあ学  
校がいっしょやし、出入りがあるからねえ。とにかくガキが  
いてて、「こらっ」ちゅうようなもんやね。「どっから来た  
？」「招提から来た」……子供同士對抗意識持つてる。だか  
らよう喧嘩してはった。「高野道たかのちみち来い、ころげて来い、団子  
十五もよう喰くらう」て言うて。高野道は校区が違うのよ。菅  
原小学校行かはるんよね。こっちの方が近いけど。

よう川をはさんで喧嘩してはったよ。招提は船橋川に向こ  
うまで田あつたから、よつたり山の藪くさらへんで喧嘩してたん  
かなあ。私わたしらそんなんあまり知らんけどね、よそ行くのこわ  
かったよ。牧野と招提は合併したからこわくなかつた。とに  
かく、関所がありましたよ。

「長尾の長坂……」

招提周辺でも東は高野道から長尾まで、家ないわねえ。ほ  
んで、おかしいねえ、長尾行く道、「長坂」言うた。今は企  
業団地からスツスツと抜けて行くでしょ。昔はそんなん何も  
なかった。「長尾の長坂、天下のふんどし」て、よう言うた。  
(笑)「天下のふんどし」て……。 (笑)あこは長いですよ、  
くねくねと。招提から抜けて行ったら長尾の入口まで何もな  
い。山。

しやから、子供時分は、冬なったら兎うさぎ狩りに行つたよ。峠  
の方。棒か何か持つてたんと違うかなあ。それと鐘かねと太鼓  
か……。ワアワア氣勢あげて追い込んで。そんなにはとれへ  
んかつたんと違う？ 二、三匹ぐらいやと思うわ。食べた  
りはしてないから、学校で飼かつたりしてたんやろねえ。

(続く)

# 柿木和子さん

柿木和子さん（63歳、招提元町・柿木菓子店）

△その2▽

1991. 3. 1号

## 木津川で泳ぐ

今やったら夏でもプールありますけど、プールなんてあれへんやん。プールがないから夏休みになったら、木津川泳ぎに行きましてん。八幡の水泳場ってあつてん。ここの人やつたら、そう言うたら「ハハーン」てうなずきはるんやけど、おたくら知らんわねえ。八幡の木津川まで泳ぎに行くねん。それも歩いてね、往復。

幣原越えで行ってるねえ。今、いっぱい家建ってるけど、昔やったら家あらへん。水月庵のそこ通ってくねん。そうすると八幡の浜に出るわけ。

昔はどこもプールないもん、田舎やったら川で泳ぐとか、男の人はその今池や新池で泳いであった。私らやっぱり女やからあんなとこで泳がへん。それでも「がいめろ」って言うてね、「めろ（女郎）」なんて差別語みたいと思うねえ。

「がい」というのは「がいな」て、「やんちゃん」いう感じかな。そう言うてた。私らも、二、三人で今池で泳いだことありましてん。今みたいな水着ないわな。パンツいっちょでシミーズなんか着て、チャーと泳いでた。あの池で。（笑）水はもっときれいでしたよ。あんな汚ないことないですよ。そら水はきれいやしね、あそのの「どどん」いうて水の落ちるとあるでしょ、田んぼとか水入るのに。どどん水が落ちるからそう言うたんか知らんけど、そこで祭までに障子を張ったりするのね。あそこまで持って行って川できれいに障子の棧かを洗ったり、洗濯物をあそこで洗ったり……。おしめとかでも、川でちょっと洗ったらきれいに流れていくわね。きれいな水やったよ。

## 本当の「遠足」

冬になったら「耐寒訓練」て言うんですか、高等科ぐらいの時、四條畷神社から飯盛山まで徒歩で歩きましたで。今思ったらすごいです。桃山御陵も行ったよ。近鉄の大久保の駅の、あこらへん越えてずうっと行くんですよ。とにかく歩かんとだめやから、ここらへんの人は足達者や思いますで。歩きますもん。一日中かかるわねえ。

春は、今なら「社会見学」いうけども、「旅行」いうて電車に乗せてくれるわけ。秋は遠足で、「遠い・足」やもん、

歩くんですよ。歩かなしかたないもんね、とにかく歩きましたよ。阪急の水無瀬や桜井の里、これも枚方まで歩いて、堤防沿いに行つて橋渡つてクルッと回らないかん。歩くのよ、せんぶ。そんな、電車なんか乗せてくれはらへんよ。

「つめえ」

私らの時は「男女席を同じゅうせず」やから、男子組女子組に分れてたけど、歩くのはかまへんのやけど、列をつつて、間があいてつめる時に走つ

たりせなあかん。それがしんどかった。そんなだけは覚えてるわ。しやけど、歩いたら間があくやん、そしたら「つめえ」て言わはるねん。したら走らなあかん。それがしんどかったわ。それは覚えてるけどね、とにかく歩け歩けやった。

「水おくれ！」

夏、木津川まで往復歩くから喉が乾くやん。せっかく泳いで帰ってくるのに。だから途中で井戸水ガブガブ飲んでねえ。一人飲んだらみんなもらいました。そのへんの家で、井戸が



歩くだけでもしんどいのに

あつてつるべがあつたら、「おばちゃん、水おくれ」てな感じでね、わーっと水飲みましたよ。それでべつにお腹痛もおこらへんし、何もなかったねえ。

電車は京阪電車と、汽車は片町線。招提はちょうど中間地点やから、駅まで出るんやったら歩くのが早い。

いつも八月になったら、藤阪に明尾寺あきおじつてありますね。あそこに十日盆いうて、八月十日になったらすぐ夜店が出て賑やかだったんですね。それも歩いて行きました。きれいな着物着せてもうてね、向こうでお参りするんじゃなくて、店参り行くわけ。(笑)でも、それも歩かなしゃあない。今みたいにいえ道と違うけど、田んぼ道はすかに行つて、そんなんにかからへんかった。

「こつて牛」先生

そうそう、六年の時、火薬庫の爆発がありましたねえ。逃げましたで、みんな放つたらかしといて。あの時吉山先生は風邪で休んではつたてねえ。私はね、先生が違って、和歌山の龍神村から来てはつて、阪の住宅がもうできてたからそこに下宿してはつた。すごい怖い先生やつてん。師範卒業してすぐに来はつたんやけど、あいさつしてすぐ、子供がガヤガヤしてたらすぐ怒らはつてんね。その先生の仇名あだながね、「こつて牛」て言うててん。雄の牛でものすごい気性きせうがきつ

いねんてね。私らがつけたん違ふよ、そんな仇名がついてたんですよ。でも私、この先生はよかったなて思うわ、今でも同窓会したら来てくれはるんですよ。その先生の奥さんが私と同級生なんよ。だから、何年後にお会いになったんかな。だから結局、教え子と結婚しはったんよね。

いっせいに逃げる

その先生の時に火薬庫の爆発があった。習字の時間で、「柿くえば鏡が鳴るなり法隆寺」、それを書いててんね。最初、爆発か何かわからへん。ひどく火の手があがったんが、すっとなんとんで見えてるわけ。その頃は何もなもん、間に今やったら考えられへん。最初は音がして何が何やらわかれへんかったんやけどね、爆発音があったから飛び出たわけね。



靴履いたんやろなあ思うけどね。

殿二小学校からはどーんと低くなってるけど、そこからとにかく田んぼをどう走ったかわからんけどね、歩くねん。すると爆発のすごい音がするねん。それを聞いたびに皆がパッと走って、結局八幡の小学校まで行った。どうして走ったかわからへん。先生かていやはったかどうかわらんわ。(笑) 八幡小学校までどこをどう行ったんだろうか……。昔やった楠葉の面取越えと、こっちやたら幣原越えとか道があったんですよ。八幡の小学校に逃げておにぎりをいただいたけど、私は八幡に知人がいたからそこで泊めてもらって、あくる日にね、皆また歩いて帰った思うよ。乗物なんかないもんね。家も何も放ったらかしといて、知らんわ、ぜんぜん。家では心配してたかもしらんけど、一人やないし、そんなもんぜんぜん覚えてへんわ。あの頃電話いうたら招提に一軒か二軒あったぐらいでしょ。電話あったか知らんけど、子供のことやからただ怖いだけで……。(笑)

地下も爆発するぞ……

怖かった、やっぱり。黒い煙がパアッとあがるでしょ、戦争みたいなものかもしれへんけど、その時は戦争もまだないもん。怖かったねえ。

三学期に火薬庫の爆発事故で殉職された方の慰霊祭が、中

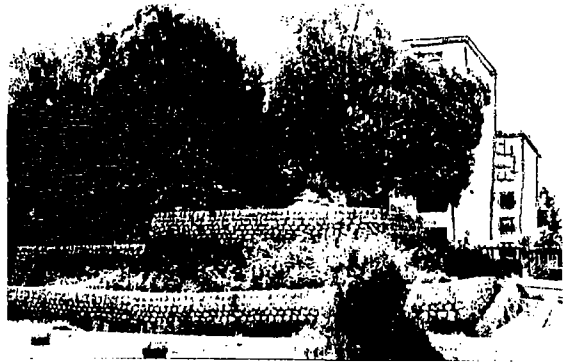
宮でおましてん。学校から生徒代表として男女一名ずつ（田中君と私）が出席したんやけど、ぐるりはもう何もなくなつてて、道は火薬で真っ黄でしたわ。

あくる日になつたら、また地下が爆発するさかい……とか、また家中で長尾まで

逃げてるわ。（笑）ほら、地下の倉庫が爆発するさかい何里四方は危ない……とかね。へんなデマがいっぱい飛ぶんやわなあ。その時分は情報いうたかて、ラジオがあったかなあ。そんなぐらいで、こういう事なんかは⑩やなかったかなあ。

### 運動会

学校の事でいうたら、運動会、北河内の東部の運動会ってあったんよな。津田の小学校で。あれは四年生ぐらいから参加できるんかなあ。それも結局歩いて行きましたね。楠葉も……。北河内郡の運動会は寝屋川であったんですよ。それも



爆発事故のあと、誘爆を防ぐためにつくられた土手の一部が、今も中宮団地の中に残っている。

四年生か五年生ぐらいから応援に行けるわけね。香里園の駅の次に「グランド前」って駅があつて、そこでやりましたよ。戦争中はそのグランドも、イモとかいろいろつくってはったみたいね。今、「グランド前」がなくなったから、駅の間が遠くなつてますわ。

東部の運動会、郡の運動会、学校の運動会もむろんあるわねえ。運動会が三つあったわけね。運動会の際は、大人も子供も総出で、朝から賑やかだったですよ。

（続く）



# 女學井のぼん

柿木和子さん（63歳、招提元町・柿木菓子店）

△その3▽

1991. 4. 1号

## 台風の時も饅頭づくり

私とこの店ね、わりと古いですね。ずっと饅頭屋してましたやろ、だから私は「饅頭屋のおばちゃん」でよろしいねん。「おまん屋」「饅頭屋」言った方がようわかる思いいます。

昭和二年に父が死んだ時、姉が八歳、兄が三歳、私が〇歳ですわ。母がその後続けてやってたんやけどね、おじさんとか助けてもろてね、室戸台風の時でも休まんち饅頭つくってたいのよね。後から、「ようあの時してたな。こけて火出してたらどうなったやろなあ」言うてましたで。風速六十キロ以上でしょう。屋根瓦がバーて飛んでるのに饅頭してて。饅頭つくるの終わって台風もおさまって、ほんで注文先へ持っていったら、その家が屋根だけ残ってた言うて……。草ぶきやから、あの屋根、わりとボンソソといくわけね。そうい

う話聞いてますわ。

## 戦争で閉業

祝日とか正月とか、そういう日になったら学校から注文あるでしょ。注文あったら、できた饅頭をちゃんとへぎに包んで……「へぎ」ってわかります？ 竹の皮と違えますよ。今やったらただ箱の中にボンボンと入れるけどね、あのへぎってよろしいな。それに紅白饅頭入れて包んで、ひもでくくって、紅白ののし紙かけてゴムバンドで止めて……今みたいにセロテープないしね。それを私らも式があるまで手伝って、それで学校行ったもんですよ。

ただ、戦争が激しくなって統制になってきてからは、材料が入らないわけね。だから自然に、やめざるをえなくなったんですよ。私も学校出たから勤めたしね。結局、また勤めやめてこんな店してますけども、店自体は古いんですよ。だから今でも「饅頭屋」の方がよくわかるんですよ。

## 進学したかったけど……

小学校出てから、上の学校も生きたかったですけど、まあ母子家庭やったからね。昔は、六年から、男の人やったら中学校、女やったら女学校ですわね。そやけど、やっぱり母子家庭やからねえ、兄も行きたかったやろけど行かれへんかっ

たからなかなか女学校なんか……。

招提で、私の同級生の人は女学校行ってはらへんねえ。そやけど牧野の人は沢山行ってはりますねえ、やっぱり。(笑) 十人ぐらい行ってはった思うわ。府立やと男の人は四條畷中学、女の人は寝屋川女学校しかなかった。私立はありますよ。淀工とか帝国は前からありましたね。

### 戦争一色

小学校の高学年になった頃から戦争になって、兵隊さんを送りに行かなあかんかったねえ。招提の公民館の前に、今でも「忠魂碑」いうの残ってますねえ。壮行会いうんか、みんな駅まで送って行きましたわ。授業もその時は休みになったと思うわ。もう戦争一色になってきたからねえ。

しやから、学校時代からずうっと二十歳まで、もう戦争はっかりやもんねえ。戦争のまったただ中や。私らが尋常高等小学校卒業して二、三年後には「国民学校」いう名前に変わったんちがうかなあ。

本当に今の人、うらやましいなあと思うね。遊ぶってことなかったもんね。それはそれなりの青春時代というものは、いろいろあったけどね。

### 郵便局に勤める

十六年に高等小学校上がった後、枚方小学校の中にあつた枚方実務女学校(主に裁縫をしてた)に入學しましてん。そやけど、裁縫はどうも苦手でね、すぐやめましてん。兄が大阪中央電信局(今のNTT)に勤めてたからね、どうしても郵政方面に行きたいなあと思て、大阪特定局吏員養成所に入りましたん。ここは三ヶ月間官費で勉強できて、そのかわり卒業したら一年間は勤務する義務があるわけですわ。それから配属されて大阪の郵便局に行つたわけですけど。

その時分でも、田舎のぼつと出が市内に出たら、やっば辛かったですね。まず電話が困つたもん。今やったら小さい子供時分から電話のやりとりしてるけど、電話なんか家にないもんねえ。まず話の内容がわからん。でも聞かんと怒られる。

出てくれはらへん。出ないかんでしょ、しやけど出たかてわからへん。「すいません、わかりません」「聞きなさい」てなもんや。(笑) やっば辛いねえ、田舎から出てきてるから。

(笑) 慣れたらどうってことな



ガスがこわい…

いけどねえ、辛かった。自分の名前が「柿木」言うただけでもドツと笑われた。それと、ガスが怖かったです。つけるのが。どこの家でも柴や炭しか使えないもんね。マッチ近づけたらポポポツとつくでしょ。あれが怖かったん。(笑)

やっと慣れて

一年間勤めた時分には仕事にも慣れて友達もできました。電報は、旭郵便局(今の城東郵便局)に電話で打つんですわ。自分も名前を言うし、受信した相手の人も名前を言うのよ。そやから自然と声も名前も覚えるわけ。電信は明け(休み)があるから、局へ遊びに来られたこともあるし、私たちも遊びに行きましたよ。

帰るが遅い日は、母が駅まで迎えに来てくれたんやけどね、一回だけ、映画見に行ってきたう遅なって、母と兄と二人で迎えに来てくれたんはいいんやけど、きつう大目玉をくらいましたわ。

牧野駅までは歩いて行くわけね。招提から歩いて、公民館からちょっと上がったところに「かご竹」さんって花屋さんがあったんやけど、あこらへんまで行くと、上島のとこ電車がくるの見えたんよ。「いやあ、もう来たあ！」てなもんで、電車と競争してたもん。私だけとちごて、その電車に乗る人みな走らはるわけ。(笑)

枚方局にかわる

大阪まで通うのがきつくなってきたので、枚方の郵便局に転動してきたんですけど、みんな年頃になるとやめはるのよ。そやからいられへんねん。それを辛抱して行ってたら沢山退職金もらえてたのね。最近まで皆いはりましたよ。でもやっぱり、家におばあちゃんがいはるとか、そんな人が多いみたいよ。

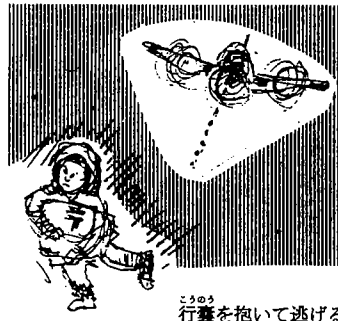
枚方郵便局に勤めてた人はほとんどが農家の人で、食べる物には不自由してなかったみたいやけど、私なんか、麦ばっかしの御飯と梅干しの毎日ですわ。白いご飯が食べたかったわねえ。

毎日が必死でね、終戦のすぐ前には、職場の同僚のお父さんが大阪へ用事で行かはって、途中で空襲に遭って亡くなったりね。これから世の中どうなるんやろうて、ほんとに不安でしたよ。ガラスの窓には、爆撃を受けた時にガラスが割れて飛び散らへんように紙を貼りつけたり、窓は電灯に黒い覆いをかぶせて、敵機にわからへんようにして、寝間着に着かえんと着のみのままいつでも逃げられるように、布団にもぐり込んで寝たりしてたんよ。職場の仕事も、戦災に遭った人たちの転入とかで、とにかく大変でした。

## 書類抱いて避難

枚方の局に来てからは、空襲警報が出ると書類を行囊（うぶぶくろ）（郵便物を入れて運ぶ袋）に入れて、抱いて防空壕に入るとか、そんな事してました。家の防空壕はこの裏にありましたよ。あんなん入ったかてしゃあないのになあ、今思たら。（笑）

飛行機が淀川のあっち（対岸の高槻側）飛んでたら逃げることもなかった思うけどね。グラマンでも来て機銃掃射バババツときたら怖いけども、編隊が向こう通るだけなら、こっちは来ないわねえ。見てたらええんやけどそんなことでけへんわねえ、怖くって。（笑）



行囊（うぶぶくろ）を抱いて逃げる

グラマン、ここも来たみたいですよ。機銃掃射でね。私はいやへんかったけど、一人子供さんを機銃掃射で亡くしたはりますよ。

## 兄の病氣と死

兄は私より二つ上だけでしたけど、電信局に行っていました。そやけど赤紙がきて、身体が弱かったから丙種（いしゆ）やったけ

ど、二十年二月頃兵隊に行きましてん。戦争終わった後、軍隊用毛布や飯盒（はんごう）、缶詰なんかを背負って元気に復員してきました。ところが兵隊で体調を崩したのか、栄養不足か、それに当時は勤めが日勤、夜勤、休みの変則で、その休みの日に家にも帰らず労働運動をしていたのがたまたまったのか、胸を患（やぶ）いましてん。その自分は、胸の患（やぶ）いということは、やっぱりうつるって言われるのね。

学校時分から私よりだいぶよくできて、いつも賞状ももらってたわ。ようできたおとなしい兄でしたけどね。結局胸を患（やぶ）うてたから、その分私も結婚が遅れますけどね。数えの二十四やから今やったら遅ないけど、あの頃は二十歳（はふたぢ）ぐらいで結婚したはるからねえ。早かったねえ。兄は二年ぐらい闘病生活してて、昭和二十四年八月十三日、とうとう亡くなりました。母の落胆（らくたん）ぶりは、もう見てられへんぐらいでしたわ。兄は頭はいいし、姉妹（せいてい）思いで喧嘩（けんか）もしたことなかった。姉はもう一つしっかりしてないし私はちゃんぽらんで文句が多いし、何とか治ればいいと思ってたのにな。人は肺病はそばへ行ったらうつるで、て言うて、あの当時は苦しかったですわ。皆が嫌がってそばへ寄りつかへんかった時でもね、職場の友達（ともだち）は職場の話をしに来て泊まって帰られたりしてましたよ。薬（くすり）（ペニシリン）はあっても高く、私達には買われへんかったですけど、いっぺん買って注射打ってもらおかと思つて

お医者さんに聞いたら、打っても効かないだろうって言われ  
ました。食物も栄養食がなくて、お医者さんの証明もらって、  
特定の日には肉とか果物を買に行くわけですわ。健康な人  
は売ってくれへんのよね。それもしょっちゅう売ってなくて  
月に一度ぐらいでしたね。

(続く)

木野井のぼる

柿木和子さん(63歳、招提元町・柿木菓子店)

△その4▽

1991. 5. 1号

スカートがはける!

ほんと、少女時代、青春時代というのは、戦争、空襲、食糧  
難でね、ほんま暗い時代でしたもんね。うちも、戦死やない  
けど兄が亡くなったし。戦争で亡くさした家も多いわねえ。  
今はそんながないから平和でよろしいけどねえ。それに自  
分がその立場の年になってきて、息子さん死なすいうたらど  
んな気分になったやろなあと思うわ。いろいろとそういうこと  
考えますねえ。

終戦になってほっとした感じ。ほっと解放された感じした  
わ。やあ、これでスカートはけるとして。(笑) 国賊やね。

(笑)

戦時中、防火訓練とかは家でやって、私は勤めてたから  
やってないねん。処女会……処女会、ておかしいなあ、そ  
れとか婦人会とか、そんなんでいろいろしてましたわ。家に

竹槍も置いてあったわねえ。高等科時代、薙刀も習ってました。八双の構えとかやってましたで。しやけど娘時代は、バケツで水運ぶとか、それはわりにやってないねん。母親とか姉がしてた思うけどね。

### 戦争の中の青春

御殿山の枚方造兵廠、皆さんようけ仕事に行かかった。京阪電車の御殿山駅でいっぱい降りはってね。あの菜葉服（青い労働者服）着るの、嫌やってん、私。まだまだ郵便局あたりは、着物きて袴はけてん。あれにあこがれてたみたいよ、私。あの時分の自分、翔んでたんや思うわ。そんな感じやった。親に「またそんな着物きて」と怒られたりして。

やっぱりええかっこしたかったんや思うわ。それも、枚方へかわった時分から、ぼちぼち「決戦服」て言うんですか、着物をつぶして上下こしらえたりみんなしてました。でも私ら、兄の黒いズボンつぶしてボタンつけてね、胸当てつけて……。やはりそれなりに娘時代やったと思いますわ。私、ウエストも小さかったしお尻も出てへんし、ズボンもすっとするよように直してきれいに四角い胸当てあてて、うまいこと飾りボタンつけて、やっぱり戦争中であっても青春時代やったなあと思いますね。暗い時代であっても、それなりに青春やったと思いますねえ。



見送りに行って泣いたこともあった…

兵隊に行かざる人を、京都駅まで送って行って泣いたこともありますよ。（笑）そりゃあ、お互いにあるわなあ。やっぱりあって当たり前と思うねえ。それが青春というもんや思うわ。

### 見送り

京都駅まで送って行った時でも、一人ではよう行かん。誰か一緒に引っ張って行ってねえ。まあ、純情なもんよねえ。初めて大阪駅行った時は、北牧市長の弟さんねえ、あの人満蒙開拓団に参加して行かかったんです。少年満蒙開拓義勇軍ですか、そんなんで行かれて、大阪駅まで行かれましたよ。今栃木県的那須にいたはるみたいですよ。二、三年前に、一

の谷で同窓会した時にお会いしましたが、なかなかこつ  
ついでのひらをしたはるねえ。苦勞したはるんやな思いまし  
た。私ら何もしてへんからやわらかい手ですよ。よく帰って  
きはった思いますよ。

うちの自家のおじさんも満州の陸軍病院に配属されて、そ  
の頃はまだ皆さん内地やのに満州やったから、「あんな遠い  
とこ行きおって」て母親が泣いてましたねえ。今はあんな、  
平和でよろしいなあ。今の子は。でも、これからどないなる  
かわからへんよ。いつまでも平和であつたらいいけどねえ。  
こんだけいろんな事がでてきたら、私ら怖いなあて思うわ。  
湾岸危機で出兵とか言ってるけど、おんなじやね。

### パーマメント

そうそう、戦時中ね、女の人でパーマメントかけてるのは  
珍しかったんよ。(笑)「パーマメントに火がついて、見る  
見るうちに禿頭、禿げた頭に毛が三本……」という歌があっ  
て。(笑)

招提に一人だけいてはってんよ。やっぱりハイカラやった  
わ。「ぜいたくは敵やからいかん」と言われてたからね。  
「素」入れたら「素敵」やけど「敵」だけやとあかんねん。  
今と逆や。

終戦後パーマ当てようと思ったら、電気じゃなかった。電気は



1940年、ぜいたく追放のキャンペーン  
あけび書房『平和への伝言』より

停電が多かったから炭を持って行ってね、炭火でパーマを当  
ててもらった。その炭がないから、家から炭を持って行くわ  
け。これは戦後やね。戦後しかパーマ当てられへんもん。

### 闇も手がける

二十二年の二月、とうとう郵便局をやめました。食糧事情  
がまだ悪くてね、闇商売が流行してました。私も商売しよう  
思て、松屋町の菓子問屋に仕入れに行つて、一反風呂敷にい  
っぱい仕入れて両手にさげて帰ってきました。まだバスも通  
ってへんさかい、牧野駅から歩いて家まで帰ってくるんやけ  
どねえ、途中で警察に尋問されたり、危ない橋も渡りました  
よ。

家に持って帰ったら、一日ですぐに売り切れですわ。商売

が面白かったですねえ、ほんまに。こんな時男手があったら  
ようもうかったのね、兄は商売は嫌や言うて勤めてた（ま  
だ発病前）し、母もね、饅頭作りを頼まれて、その家へ行っ  
て作って御礼をいただいたりしてたの。私も、店の合間に慣  
れない百姓仕事したりして、食べることだけはどうかになっ  
てたわけ。

### 結婚・母の死

それで、二十四の時に私は結婚しましてん。夫には婿養子  
としてきてもらって、それからちょうど一年もせんうちに、  
母親が亡くなりましてん。十月六日（昭和二十五年）午後か  
ら、「寒気がするし、もう寝るわ」言うて布団に入りはった。  
今みたいに暖房器具ないから、こたつ代わりにコンニャクを  
熱くゆでたり塩を焙烙で煎ったりしてぬくめましてん。私が  
寝る時、「どうや？」「どもない。大丈夫や」。それが、朝  
方気になって見ると、身体全体に斑点が広がってますねん。  
こりゃいかん、いうんで「お医者さん呼ぼか」て聞いたたら、  
母が「ふん」て返事したんで、主人に黒川医院まで自転車で  
走ってもらいました。太ももにブドウ糖の注射してもらっ  
たところだけが肌色になって、それから、もう一言も言葉を  
交わすこともなく亡くなりました。

原因は血圧でね、両親とも血圧が高くなって亡くなってるわ

け。これからどうやって行こうかって、途方にくれたですよ。  
母に何一つ孝養もできへんかったしねえ。苦勞のかけっ放し  
で、母も後の事が気がかりで死ぬにも死にきれんかったのと  
違ふかと思うと、涙、涙でねえ、悔いが残りましたよ。

やっぱり親ってものがないてことは、防風林がないって  
うのかなあ……、まだ年が若かったし、辛いこともいろいろ  
ありましたねえ。

### 娯楽

もう、あとは生活に追われっ放し。店も細々ながらやって  
たけど、夏はかき氷、夜店出したり、学校の運動会いうたら  
校門前に店を出したり、何でもやった。田んぼも少し借りて、  
一年食べるぐらいの米はとれた。主人が器用やったんで、野  
菜もとれたけど、生活はほんとに難儀しましたわ。

戦後は娯楽が何もなかったでしょ、そやから各部落でね、  
素人演芸会とかのど自慢なんかはやってたんよ。私もね、  
踊りとか劇とか出てましたよ。夜遅くまで、公会堂とか踊り  
のお師匠さんの家でけいこして、殿二小学校の講堂借りてや  
ったわ。船橋や牧野で素人演芸会とかのど自慢があると聞い  
たら、必ず見に行きました。今みたいにテレビ見るのと違  
って、あの頃はみんなが劇やったり歌やったり踊ったり、青  
年団やったら駅伝走ったりしてたから、今より活発やったよ



うに思うよ。自分らで何でもしてたからね。

店の方もまあまあ軌道に乗ってくると、雨降りの日とか夜は若者のたまり場になってね、男の人たちも毎日のように遊びに来てくれました。みんな今は好爺さんになってはるけどね。

(続く)

女 長男の出産

柿木和子さん (63歳、招提元町・柿木菓子店)

△その5▽

1991. 6. 1号

### 長男の出産

その当時、私はまだ子供ができてへんかって、あっちこっちの産婦人科で診てもらったんやけど、どこでも「子宮発育不完全」って言われてん。そやけど、やっぱり子供はほしいわねえ。できるだけ栄養取って体力つけるように頑張りました。おかげで、四年ぶりに妊娠しました。つわりもそうひどくなくて、妊娠は病気やない、重い物をなるべく持たんようにしたら、毎日仕事をして体を動かしてた方がお腹の子供にもいいし安産できる……て聞いてたの。そやから、家事、田んぼの手伝い、田の草取りもしましたよ。天神祭(七月二十五日)の頃になるとよつん這いになって手で雑草を取るんですわ。いちばん暑い頃やし、そりゃあすごい重労働ですよ。

やっと産み月の十二月になっても、脱穀、もみすりをして

主人と二人で六十キロの米の入ったふご（竹とわらで編んだ物を盛って運ぶ運搬具）を持ったりしましてん。そしたら十二月三日の早朝産気づいて、主人と産婆さん（竹中さん）の立ち合いで、男の子を無事出産しましてん。

安産でしたわ。主人も喜んでくれました。母が生きていたらどんなに喜んでくれたやろかと思いました。さあ、名前をどないつけよう、姓名判断の本借りて「裕仁」とつけようかと思てんけどね、それは天皇さんと同じやからいかん。そしてたら「昭」とつけよか……ところが字画数を調べると凶と出た。初めての子やから「一」をつけよか、いうんで、「昭一」とつけましてん。

#### 不景気の頃

さて、この子が赤ちゃんの時は神経質な子でね、私もピリピリしてたと思うわ。腫れ物にさわるみたい。この頃朝鮮戦争の特需景気が終わって、景気が悪なってきたね、店も不景気になりますねん。仕入れするにもその現金がないわけですから。母の着物や自分の晴着なんかを質屋に持っていくんですけど、買い戻すことができんと流してしまったり、今で言うサラ金みたいなところから金借りたり。どん底生活やねえ。主人も店が暇やから、新聞広告見て大阪市内の工場に就職したけど長続きせんと、転々と職場をかわりましてん。

私も、息子が三歳の頃、店を姉に任せて大阪の福島区の会社に就職しましたけど、なんせ家が遠いから続かへんのね。ちょうどその時、招提日置農協で事務員が欠員になってたので、知人の紹介で就職しましてん。吉山先生の話にもあったように、招提の農協が分裂して新生農協と日置農協に分れてた頃ですわ。表面は穏やかでも敵対意識がどろどろして、今思っても大変でしたわ。

#### 農協勤め

その当時の農協の事務は、暇なようでも雑用がけっこうあるんですわ。農繁期なんか、朝の七時頃からね、私の家に来はんねん。「ちょっと組合開けてんか。肥料（農薬、田植え靴など）ほしいねん」。それで組合の行ったり戻ったりですわ。ミスしたら怒られるしね。

それからまた妊娠して、今度は女の子を出産しました。やっぱり前日まで農協に勤めてたんよ。主人がね、「美代子」がかわいくていいと言うので、「美代子」とつけました。それから当分は美代子を姉に任せて農協に勤めてたんやけど、美代子もよく泣くし、息子も入学するのでやめたんですわ。私がやめた後農協は枚方で一本化されてね、招提も一つになって、枚方農協招提支所になりましたん。

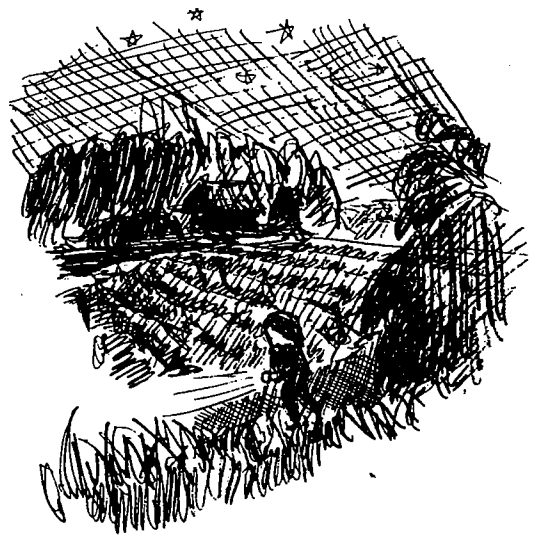
## 風呂は最後に

そうそう、水道が通った人は昭和三十四年十月ですわ。それまではね、家の裏の井戸からつるべで水くんでバケツで台所まで運びますねん。風呂わかそう思ったら何回も何回も運ばなあかんでしょう、しやから隣近所で交代してわかしてたんよ。「うち風呂たいたから入りにきてや」言いに行きますねん。ほんで、お嫁さんとか女の人はいちばん最後に入るからね、お湯が腰のへんしかありませんねん。それでも皆辛抱して入ってましたよ。

## 夜道は怖かった

昔やったら田んぼばかりで、企業団地もないし、枚方パイパスもないし、招提の在所からよったり山まで何もなかった。夜は街灯もないしねえ、そら怖いですよ。お墓も怖かった。家かて、電気も一つか二つだけですやん、裸電球がね。牧野駅から公園の間通ってくる道、新道しんみちって言ったんですよ。広い道やなあって思ってたけど、この頃は狭い。(笑) 広かったですけどねえ。

医大の裏通って殿二小学校から招提に来てる道は、学校道とか裏道とか言ってたんです。今は住宅あるけど、あの時分医大の裏はぜんぶ竹藪と畑で昼でも薄暗い所でしたけど、朝



夜道はまっ暗で怖かった

とかはあっこ抜けてく方が近い。だから、公民館の前を通って新道へ出るわけですね。帰りは怖いから、ずっと新道通って帰りましたん。大阪からやったら暗なつてからやから、怖いですよ。

## 畑ばかり

駅降りたら、島田の布団屋さんのところは昔のまんまで残ってまっしやる。清岸寺やる。ほんで公園というのは山みたいに高くて、あんな公園と違うかったからね。両側が崖みたいになってた。歯科大のとこ回ってきたかて松林でしょ、ほんで道の北側に瘡神くまがみさん。くさ(皮膚病やできもの)の神さん

やったからね。消防署の隣にありますやろ。今はどうか知らんけど、昔は絵馬みたいのんよおけぶら下げてはった。それから何もなくて、医大の前の上に大忠さん（酒店）なんかがちよぼんちよぼんとあねねね。それからまた招提まで家がない。あとは畑と田んぼやからね。

医大も、今はきれいにしたはるけど、あんなん違うかつたもん。鉄条網張ってあるぐらいで。あそこ通つたらな、死んだ人がな……解剖したはるとか、いろんな事言わはるやん。（笑）そうやろ。アルコール漬けとか、あこ歩いたら死んだ人が出てきはるとか……。私は隣に職場がいっしょのいとこがいてたから、一緒に通つてた。それでそんなに怖なかつたけどね。

東はよつたり山、高野道まで何もなし。牧野向いたら阪住宅がぼこんとあって、九頭神（今は地名が消えて牧野本町に入っている）があるのね。向こうに行つたら日置天神社まで何もなし。南の方は田口の出屋敷まで行つたら出屋敷の家があるだけで、ほかに何もなかつたねえ。

朝は朝星……

畑や田んぼこれだけつくつてたわけやから、私らより上の女の人は大変やっと思ふよ。畑仕事もせなかんし、姑さんに仕えて、洗濯も煮炊きもつくろいもんもせなかんし……。

私、今でもゆっくりしてたら怒られるわねえ。周囲が百姓してたら、農繁期になればおんなじようにモンペはいてんとね。「あの子気楽になあ、スカートはいて」て言われるやん。「みな忙ししてるのに」……だから、農繁期なつてきたら、こつちも忙しいかっこしてね。（笑）

だけど、百姓の人は子供おんぶしてでも用事してはったしねえ。そりゃあ女の人は「朝は朝星夜は夜星」で、風呂かて薪で焚かなあかんでしょ。それも買うんと違つて、御殿郷ね今家建つてるけど、あすこら行つてこくも（熊手の小さい形をした小熊で落ちた松葉を搔くところから、松葉のことをも言う）とか家持つて帰つて、私の母なんかこくまの下草刈つたりしてましたよ。燃料がないですやん。しやから、女の人は大変やつたですよ。

御殿郷いつたら、国道一号線の向こう側や。田口山になるんかな、住所は。あそこら一带山やつたからね。御殿郷の山登つたら、招提の村からずつと淀川の堤防まで見えてましたよ。あの山の上に撮影所ができてたんよ。その前年ぐらいと思ふけど、御殿郷の山がっぱい道路つけて開発されたんよ。提灯いっぱいついて、賑やかだったんよ。撮影所は二階建て、その頃はみんな平屋建やつたから、珍しいから私ら見に行つたわ。それが昭和九年九月二十一日の室戸台風でせんぶひつくり返つて、その後、御殿郷の山も道路も、そのまま放つた

らかしになってましたわ。

戦争はこりこり

みんな昔の話になったみたいですけどねえ、そう言うてる間に湾岸戦争が始まって、終わって、自衛隊も行くとか行かんとか、話ありましたねえ。私らやっぱり、戦争だけはこりこりですわ。それだけはやらんといほしいですわ。世界中が平和であることを、祈りたい気持ちですねん。

(了)